

テーマ：記憶について

授業者：青柳・壘・山本

(1) ねらい

短期記憶と長期記憶の概念を理解し、繰り返し学習することの有効性を実感させる。

時間	活動内容	教師の支援・発問 ・予想される子どもの反応
導入 (5)	テストの直前の話を聞く。	<p>「みなさん、テストの日にテストとテストの間の休み時間も教科書やノートを見ていましたね。それは効果がありましたか。」</p> <p>効果があった者、無かった者を聞き、挙手させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手が挙がる <p>「では、直前に覚えるというのは有効かどうか、ちょっと実験してみましょう。」</p>
展開 (40)	<p>アルファベットの無作為の並びを覚える実験を行い、短期記憶について学習する。</p> <p>アルファベットによるチャンクの実験を行う。</p> <p>「短期記憶」「長期</p>	<p>数字を並べたカード(3～10桁)を5秒ずつ提示し、配布した紙にその数字を書くように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9桁程度までは覚えられる。 <p>すべて提示し、書き終わったところで答え合わせをする。意外と覚えていられないということを実感させる。</p> <p>「では、どのくらいの量を休み時間からテストの最初くらいまで覚えていられるのでしょうか。ちょっと実験してみましょう。」</p> <p>アルファベットの綴りを読み上げる。 (ODAIMFUNOILO)</p> <p>記憶したアルファベットを紙に書くように指示する。</p> <p>なかなか多くは覚えていられないことに触れる。次にアルファベットの並びを項目で区切って読み上げる。 (ODA/IMF/UNO/ILO/TMR/GNP/TRF/WHO/PHS/JAF/BMW)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとになっていれば多くのアルファベットが覚えられるということに気付く。 <p>「短期記憶」「長期記憶」の概念について話す。(板書も行う。)</p>

	記憶」の概念について説明を聞く。	
終末 (5)	まとめ	つながりのある項目にして、リハーサルをすることが重要だということに触れながら本時のまとめの話をする。

参考文献

新・心理学の基礎知識（中島義明，繁榊算男，箱田裕司 有斐閣ブックス）

心理学辞典（中島義明，安藤清志，子安増生，坂野雄二，繁榊算男，立花政夫，箱田裕司 有斐閣）

